

Title	經濟論叢自第三十一卷至第四十卷論題索引
Author(s)	
Citation	經濟論叢 (1935), 41(6): 1-14
Issue Date	1935-12-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/130655">http://hdl.handle.net/2433/130655</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

# 京都市大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷 第六號

昭和十年十二月一日發行

## 論叢

消費利子の問題……………文學博士 高田保馬  
車稅の基本的問題……………法學博士 神戸正雄

## 時論

産業組合製絲と養蠶農家……………經濟學博士 八木芳之助

## 研究

統計調査論……………經濟學博士 蛭川虎三  
資本制生産の發展と商業關係……………經濟學士 堀新一  
株式價格構成の原理……………經濟學士 石田興平

## 說苑

朝鮮に於ける金爲替本位制……………經濟學士 松岡孝兒  
限界生産力說と新勞銀基金說……………經濟學士 飯田藤次  
古典學派の商業概念について……………經濟學士 松井清

## 附錄

新着外國經濟雜誌主要論題  
本誌第三十一卷乃至第四十卷論題索引  
本誌第四十一卷總目錄

昭和十年十二月

# 經濟論叢

自第三十一卷  
至第四十卷

## 論題索引

京都帝國大學經濟學會

一、本索引は經濟論叢第三十一卷乃至第四十卷におけるすべての論題を網羅す。

猶第一卷乃至第十卷の論題索引は大正九年七月經濟論叢第十一卷一號に在り。第十一卷乃至第二十卷の論題索引は大正十四年十一月經濟論叢第二十一卷五號に在り。第二十一卷乃至第三十卷の論題索引は昭和六年二月經濟論叢第三十二卷第二號に在り。

一、論題下に掲げたる數字は卷數と號數とを示す。例へば三十一ノ一とあるは第三十一卷一號の略稱なり。第十九回國際統計協會會議記念特輯號は第三十二卷一號に當る。山本博士還曆記念論文集は第三十八卷一號に當る。

一、項目分類左の如し。

經濟學理論・經濟哲學……………	一	貨幣・信用……………	六	財政・租稅……………	九
經濟學史・經濟思想史……………	二	金融・銀行……………	七	統計・統計學……………	三
經濟史・日本……………	二	景氣・爲替……………	七	人口・移植民……………	三
經濟思想史……………	二	經營・會計……………	八	哲學・社會學……………	三
農業・漁業……………	三	經濟政策・經濟事情……………	九	雜……………	三
商業・工業……………	四	社會政策・社會問題……………	九		
交通・保險……………	五				

三十一ノ六  
三十一ノ三、四

同 同

**Abstract**

高田保馬	勢力關係の性質	四ノ一
同	利子論序説	四ノ四
同	利子の社會的説明	四ノ五
山口正太郎	了解科學としての經濟學	三六ノ五
米田庄太郎	數學的經濟學の論理的構造	三二ノ一、二
同	數學的經濟學の論理的構造の批判	三二ノ三、四、五

### 經濟學史・經濟思想史

相澤秀一	ウィリアム・ペティの經濟説	四ノ三
青山秀夫	マールの利子論	三七ノ六
同	バイクゼルの自然利子論	三九ノ四、五
朴克采	リカルドオの比較生産費説について	三八ノ五
出口勇藏	デイルタイの歴史研究 <small>に於ける</small> 資本主義觀	三九ノ四
堀 經夫	英國の重農主義者	三三ノ四、五
同	ロングフィールドの價值論と分配論	三五ノ四、五
石川興二	マルクスに於ける精神科學的方法	三四ノ四
桑原 晋	ルドウエル・ムウアの「綜合經濟學」概念	三三ノ五
岡橋 保	アダム・スミスの貨幣價值觀	三九ノ六
柴田 敬	貨幣的景氣論史	三九ノ一、二
白杉庄一郎	アダム・スミスに於ける經濟史觀	三六ノ六
同	アリストテレスの價值論	三七ノ六
同	アダム・スミスの廉價即豐富論	三九ノ二

同	ロッシャーの歴史的方法	四ノ一
同	ロッシャーに於ける國民經濟の意義	四ノ五
田島錦治	尙書の虞夏書に見はれたる經濟思想	三八ノ一
高田保馬	マルクス地代論の解釋	三五ノ四
同	マルクスに於ける平均利潤率	三六ノ四
同	ベエムの利子生産力説	三八ノ四
竹中靖一	スミスの歴史學的教養と環境	三三ノ一
同	アダムスミス <small>に於ける</small> 經濟社會の本質に就て	三五ノ四
同	アングロ・時代の社會單位について	三七ノ五、六
谷口吉彦	チャー・マーズの恐慌理論	三八ノ二
同	古典派における恐慌論と動態論との關係	三八ノ三

### 經濟史・日本經濟思想史

江頭恒治	肥前有田陶業の發達	三六ノ五
本庄榮治郎	近世の人口について	三一ノ三
同	本居宣長の經濟思想	三一ノ六
同	幕末 <small>に於ける</small> 農村人口及農村狀態 <small>に關する</small> 一推算	三一ノ一
同	幕末 <small>に於ける</small> 幕府產物會所設立計畫について	三二ノ二
同	幕末の株仲間再興是非	三三ノ三
同	明治初年御用金の負擔者について	三三ノ二
同	育子教諭書について	三三ノ四
同	再び育子教諭書について	三三ノ六

本庄榮治郎	土佐藩に於ける育子令について	三六ノ一
同	福岡藩の育子策について	三六ノ五
同	笠間藩の民政	三五ノ五
同	土佐の育子策について	三六ノ一
同	福岡藩育子策再論	三六ノ三
同	徳川時代における植民的思想	三六ノ一
同	國益主法掛について	四ノ一
堀江保藏	徳川時代の藩營專賣論	三六ノ四
同	正司考祺の專賣反對論	三六ノ五
同	アメリカ經濟の發達と移民の消長	三六ノ三
同	グラスの工業發達階段説	三六ノ一
同	徳川時代諸藩の國產會所に就いて	三六ノ一
同	松江藩の人蔘專賣と維新後の處分	三六ノ六
同	宇和島藩の蠟專賣	三六ノ一
同	資本主義の型	三七ノ五
同	植民地時代米國の土地保有制度	三六ノ一
同	大阪の刷子工業に於ける經營形態の發達	三六ノ五
同	山口藩に於ける幕末の洋式工業	四ノ一
同	中島治平と山口藩の洋式工業	四ノ五
菅野和太郎	徳川時代の工業と商業資本	三六ノ五
同	近江日野町志を讀みて	三六ノ二
同	近江商人と地方金融	三六ノ三
同	紀州家名目金	三六ノ三
黒正 巖	元祿時代歸農武士の家計	三六ノ五

同	明治初年に於ける侍階級の騷擾	三五ノ三
同	百姓一揆論に關し土屋喬雄氏に答ふ	三五ノ四
黒羽兵治郎	地券について	三六ノ三
同	助郷不動滞金の處分	三六ノ四
同	助郷制度に就いて	三四ノ二、三
宮本又次	アンドレアデス氏「日本の人口」について	三六ノ二
同	株仲間の冥加金につきて	三六ノ四
同	株仲間の信用保持機能	四ノ五
大山敷太郎	東海道濱松宿に關する一考察	三六ノ一、二
同	東海道濱松宿 <small>に於ける</small> 人馬遣ひ方について	三四ノ四
同	幕末の財政紊亂について	三五ノ二、三

### 農業・漁業

神戸正雄	米專賣制の弱點	三五ノ六
蜷川虎三	沿岸漁業者問題	三五ノ三
同	漁業組合論	三六ノ一
同	漁業組合の經營	三六ノ三
同	漁業組合に於ける出資制度	三六ノ四
同	漁村更生策に於ける問題	三八ノ一
同	漁村經濟調査論	四ノ一
岡本清造	シュレーデルの「漁業經濟論」に就いて	三五ノ四
同	焼津鰹漁業に於ける船仲組織	三四ノ四、五
同	獨逸遠洋汽船漁業に於ける漁船共有組合の内部組織	三六ノ二

岡本清造	北海道鯨漁業に現存の漁場貸借關係	三八ノ一
同	北海道鯨定置漁業に於ける漁場動員	三八ノ五、六
同	獨乙の漁場入會制度に就いて	四ノ一
靜田均	ゼーリング教授の農業恐慌論	三三ノ四
同	十九世紀末の國際農業恐慌	三三ノ六
財部靜治	魚食論	三三ノ五、三三ノ一、三、六
谷口吉彦	消費組合による米の配給	三三ノ三
同	米の生産と消費の分離	三三ノ四
同	米の生産地と消費地との對立	三三ノ五
同	米の生産と消費との連繫	三三ノ六
同	農家における米の販賣	三三ノ三
八木芳之助	米價基準設定に就いて	三三ノ二
同	米穀の需要に就いて	三三ノ一
同	農業恐慌	三三ノ四
同	農業の機械化	三三ノ六
同	收穫高と米價との關係	三三ノ一
同	産米の管外移出高の季節的變動	三三ノ二
同	米穀を通じて見たる朝鮮と内地との關係	三三ノ三
同	米穀の生産費に關する一考察	三三ノ六
同	穀物專賣論	三三ノ一
同	瑞西の穀物專賣制	三三ノ二
同	外米關稅の外米市價に及ぼす影響	三三ノ六
同	社會的に妥當なる農業經營規模に關する ベルンハルディの見解	三六ノ一
同	農民離村とゴルトツ法則	三六ノ三
同	農産物生産費計算に於ける自家勞働の評價	三六ノ四
同	日滿農業收益の比較と我が農業移民	三七ノ一
同	産業組合の本質	三七ノ三
同	農業生産に於ける水平的分化と垂直的分化	三八ノ一
同	農村經濟更生運動の目標	三八ノ二
同	農産物のプーリングに就いて	三八ノ四
同	農業生産過程に於ける協同化	三九ノ三
同	農業政策の擔當者としての産業組合	四ノ一
同	農産物の生産調整について	四ノ六
山岡亮一	小農經濟理論より見たる地代	四ノ二
<b>商 業・工 業</b>		
堀 新一	ゾンバルト教授の百貨店觀	三五ノ三
同	百貨店の國民經濟上における意義	三六ノ二
同	わが國に於ける百貨店出張販賣の發展	三六ノ六
同	百貨店と専門店	三七ノ二
同	出張販賣 <small>より見</small> たる百貨店對小賣店の抗爭	三七ノ四
同	百貨店の植民地進出	三八ノ三、四
同	百貨店出張販賣の本質	三八ノ六
同	百貨店出張販賣存續の條件	四ノ五、六
同	今西庄次郎 米の銘柄別短期清算取引を論ず 清算市場取引の二形式に就いて 取引所組織の再吟味	三三ノ二 三三ノ六 三三ノ五



今西庄次郎	株式取引所の機能的本質	三六ノ四
同	投機と取引所	三七ノ六
同	取引所の公定する相場に就て	三九ノ三、四
石田興平	短期清算取引に於ける代行機關の機能	四一ノ四
磯部喜一	工業と商業との交渉	三二ノ六
菊田太郎	アルフレッド・ウエーバーの工業立地理論に就て	三三ノ一
同	纖維工業と労働	三三ノ四
同	アルフレッド・ウエーバーの工業集積理論について	三四ノ四
同	中心都市における工業集積	三六ノ五
同	陶業に於ける瀬戸・東濃・名古屋の關係	三八ノ三
松井 清	商業に關するマルクス説の一批判者	三九ノ五
大塚一朗	操短と生産費	三六ノ一
同	均一値段營業に就て	三六ノ三
同	獨占産業組織の社會的影響	三六ノ五
同	不況時に於ける中小企業の適應能力	三七ノ一
同	我國工業に於ける小企業の殘存に關する一研究	三八ノ一
同	工場委員會の型の生因	三九ノ一
同	蘇聯國の工業金融制度に就いて	四一ノ四
谷口吉彦	小賣規模の大小と小賣費用との關係	三二ノ一
同	京都市に於ける米の小賣相場に就いて	三二ノ三
同	米の卸賣相場と小賣相場との關係	三二ノ五
同	京都市における消費組合	三二ノ六

同	正米相場と期米相場との相關關係	三三ノ一
同	正米相場と期米相場との異動關係	三三ノ三
同	米の生産地相場と消費地相場との關係	三三ノ一
同	商人排除の傾向に就て	三四ノ一
同	連鎖店反對運動	三四ノ五
同	小賣商業の競争と分業	三七ノ五
同	小賣更生策としての自由連鎖店	三七ノ六
同	輸入割當制 (Quota system) に就いて	三八ノ四
同	日關會商の諸問題	三八ノ五
同	日濠貿易の調整	三九ノ一
同	輸出統制の諸問題	三九ノ二
同	中小商工業の更生と組合運動	三九ノ五
同	貿易統制の制限性と促進性	四一ノ一
同	貿易統制としての爲替清算制	四一ノ二
同	交換貿易制 (Barter system) より見たる吾國の貿易	四一ノ三
同	日支貿易の促進について	四一ノ五
同	日米貿易の調整	四一ノ六
吉本 信	販賣組合における價格の決定方法	三七ノ四

## 交通・保險

神戸正雄	國有鐵道の民營化	三六ノ五
小島昌太郎	船腹過剩問題の意義	三五ノ三

小島昌太郎 團體生命保險の官營問題

三八ノ三

佐波宣平 老齡船の處分に就いて

三三ノ五

同 船舶超過保險成立の根據について

三六ノ二

同 海運に於ける「市場の配分」と運賃構成

三七ノ三

同 定航海備船契約に於ける特約條項

三八ノ六

同 不定期船衰頹の諸原因<sup>に關する</sup>基本的考察

三九ノ四

同 積荷單獨海損填補方法の吟味

四〇ノ一

同 海上保險に於ける重複保險填補について

四〇ノ四

## 貨幣・信用

青山秀夫 ビリモヴィツチの貨幣價值論

三八ノ四

有井 治 貨幣の轉回速度の構想に就いて

四〇ノ三

一谷藤一郎 金と物價との關係に就いて

三九ノ六

正井敬次 貨幣自體の限界效用

四〇ノ三

松岡孝兒 金問題批判

三九ノ二

同 金數量説に就いて

三三ノ四、五

同 貨幣價值安定<sup>より近</sup>クレヂットに就いて

三九ノ一

同 金數量説の發展に就いて

三九ノ一

同 信用統制に就いて

三七ノ二

同 金の意義に就いて

三七ノ四

同 プウニヤティヤンと新信用論

三八ノ三

同 金物價と貨幣價值安定

三九ノ二

同 フランス・フランに就いて

四〇ノ一

同 フランスに於ける平價切下論に就いて

四〇ノ六

中谷 實 信用及信用組織

三九ノ四

同 信用と資本

三九ノ五

同 ケインズの基本的均衡關係

三九ノ五

同 貨幣と物價との相關々係に就て

三八ノ四

同 信用統制と支拂準備政策

三七ノ三

同 貨幣需要と貨幣の流通速度

三八ノ一

同 生産増加と貨幣需要

三八ノ六

同 貨幣量と銀行制度

三九ノ六

同 補助貨幣の供給

四〇ノ四

柴田 敬 主觀價值説と貨幣價值論

三九ノ六

同 カッセル教授の貨幣數量説の實證の吟味

三九ノ五

同 貨幣の主觀價值について

三九ノ一

同 再び貨幣の主觀價值に就て

三九ノ六

同 貨幣流通論

三八ノ四

同 島本 融 獨逸の本位制度

三九ノ五

同 汐見三郎 平價切下論を駁す

三九ノ五

同 高田保馬 貨幣の本質について

三九ノ二

同 貨幣の中心機能

三九ノ三

同 貨幣の價值の受動性

三九ノ五

同 貨幣の價值に就いて

三九ノ五

同 貨幣效用の測定について

三七ノ四

同 貨幣の將來效用について

三九ノ三

## 金融・銀行

一谷藤一郎	オーガアーストンの金融統制理論	三五ノ六
石田興平	證券資本主義時代に於ける資本の構造	三五ノ五
小島昌太郎	二つのインフレーション	三六ノ一
同	我が國現在のインフレーションの特質	三七ノ一
同	潜在偏向性の我がインフレーション	三七ノ五
同	購買力	三八ノ二
同	遊資の増加とその歸趨	三九ノ三
同	増税とインフレーション	三九ノ六
同	現金の流通と預金の増減	四〇ノ一
同	預金の積極性と消極性	四〇ノ三
同	獨逸中小工業金融機關としての「Industrieschaft」	四一ノ三
楠見一正		四二ノ三、四
同	獨逸大銀行と中小工業金融	四三ノ五、六
松岡孝兒	中央銀行の獨立性より見たる政府貸上金に就いて	四四ノ三
同	中央銀行の獨立性に就いて	四五ノ四
同	中央銀行役割の發展に就いて	四六ノ一
同	中央銀行協力の發展に就いて	四六ノ三
同	中央銀行の發行準備に就いて	四七ノ五
同	中央銀行兌換準備檢討	四八ノ一
同	フランスの獨立償還金庫に就いて	四九ノ二
中谷實	銀行の信用膨脹に就いて	五〇ノ一

## 景氣・爲替

同	信用擴張と銀行流動性	五三ノ三
同	金融機關としての預金銀行の地位	五五ノ一
同	預金通貨の貨幣的性質に就て	五六ノ一
同	支拂準備の法定に就て	四〇ノ一
大野榮一郎	英國に於ける預金の流通速度	五八ノ六
江口巳與吉	爲替相場の暴落が國民の富に及ぼす影響について	五九ノ六
尹行重	景氣理論に於けるシュビイトホフとハイエク	四〇ノ三
桑原晋	パースンスの「景氣豫測」	五三ノ三
正井敬次	爲替相場變動の原因について	五五ノ三
同	爲替相場の變動に就て	五五ノ五
松岡孝兒	フランスに於ける景氣變動豫測論	五七ノ一
同	金爲替準備に就いて	五八ノ三
同	景氣變動の型より見たるドイツの失業	五九ノ六
同	歴史的發展に於いて見たる世界不況	六〇ノ二
同	世界不況對策としての國際貸付銀行案	六〇ノ三
同	金爲替準備への再吟味	六一ノ五
同	ロリヤの觀たる世界恐慌原因	六二ノ一
同	レスキユウルの長期的景氣變動論	六三ノ四
同	植民地貨幣制度より見たる金爲替準備	六四ノ一
同	金爲替本位樣式の展開に就いて	六五ノ三

## 經營・會計

松岡孝兒	世界大戰英領印度の金爲替本位に就いて 前に於けるミロオの金なき國際交換決濟制に就いて	三九ノ四
同		四ノ三
祭原光太郎	景氣觀測について	三八ノ五、六
柴田 敬	長期景氣波動の研究	三四ノ一
同	長期景氣波動と世界恐慌	三四ノ三
高田保馬	購買力平價説の一考察	三二ノ一
同	長期波動について	三三ノ三
同	景氣徵候論	三三ノ五
同	景氣變動と前進變動	三三ノ六
同	景氣に於ける勢力の作用	三四ノ一
同	増税は景氣の芽を摘むか	四ノ二
谷口吉彦	金再禁後の爲替相場	三四ノ三
同	恐慌打開策としての「購買力補給案」	三五ノ一
同	「購買力補給案」の諸問題	三五ノ二
同	爲替心理説の主張	三五ノ六
同	爲替心理説の批判	三六ノ一
同	爲替相場と國內物價との關係	三六ノ二
同	フランスに於ける爲替動搖と安定策	三六ノ六
同	爲替戦争と圓爲替の騰貴	三七ノ二
同	フランスにおける爲替安定と平價切下	三七ノ三
米田庄太郎	爲替心理説の社會學的評價の基本的理論	三八ノ二
同	爲替心理説評價	三六ノ四、六
磯部喜一	カルテル法への要望	三五ノ四、五
同	國際カルテルに就いて	三七ノ五
小島昌太郎	企業の競争	三四ノ一
同	經營學の基礎概念たる資本、企業及經營	三八ノ一
同	經營形態としての共販會社	三九ノ四
同	商品勘定の損益分記法	三三ノ四
小菅敏郎	貸借對照表分析の前提條件	三四ノ五
同	費用概念考察の出發點	三五ノ一
熊本古郎	貸借對照表の基礎的考察	三五ノ五
同	ゼグエーリングの統一貸借對照表について	三五ノ二、三
同	グットウィルに關する一研究	三八ノ二
同	會計學の本質と其の問題	三四ノ一
蜷川虎三	勘定學説に就いて	三七ノ一
同	簿記の目的に就いて	三七ノ二
同	會計學に於ける基本的規定に就いて	三七ノ三
同	會計學に於ける取引の概念と形態	三八ノ二
同	經營分析と經營統計	四ノ六
大塚一朗	經營經濟學に於ける認識目的の規範者	三四ノ一
同	小賣企業に於ける棚卸見切賣出	三四ノ二
同	經營信任會の構成に就いて	三九ノ六
同	經營信任會の效果に就いて	四ノ一

谷口吉彦	經濟學と經營學との境界線に就て	三六ノ四
田杉 競	本邦製紙業に於ける混合企業と單純企業	三六ノ二
同	カルテル活動の分析	三六ノ五
同	カルテルと景氣變動	三六ノ五
上野道輔	簿記の出發に於ける一問題	三六ノ一
山本安次郎	企業豫算制度の米國に於ける現狀	三五ノ三
同	企業の豫算期間について	三七ノ四

## 經濟政策・經濟事情

神戸正雄	經濟政策の根本義	三七ノ一
黒松 巖	支那のボイコットに就て	三六ノ三
大上末廣	支那に於ける水利經濟	三六ノ三
同	支那經濟の衰退とその復興問題	三五ノ二
同	支那國民經濟序説	三四ノ五、六
大塚一朗	米國新産業政策の一斷面	三六ノ二
作田莊一	政策研究に就て	三六ノ一
同	經濟統制の理論的根據	三五ノ一

## 社會政策・社會問題

石川興二	思想對策批判	三六ノ六
同	變革期の社會政策	三五ノ二
同	現代社會問題より見たる琉球	三五ノ六
同	琉球農村共同體と我國民理想としての「國民共同體」	三六ノ一

同	市民主義・國家主義・國民主義	三七ノ四
益田熊雄	歐洲諸國の <sup>建築工業</sup> に於ける失業の季節的變動	三六ノ二
三浦周行	日本の家族制度と民法	三一ノ五、六
大塚一朗	勞務者退職手當制の改革	三六ノ四
同	勞働管理官の職能に就いて	三五ノ三
作田莊一	現今の思想問題	三六ノ六
柴田 敬	自由主義の論據	三六ノ一

## 財政・租 稅

伊藤武夫	ロシアに於ける所得稅の發達	三六ノ三
神戸正雄	戶數割に於ける調整	三六ノ一
同	段別割論	三六ノ二
同	法人配當源泉課稅の長短	三六ノ三
同	戶數割に於ける矛盾	三六ノ四
同	遊興稅の若干問題	三六ノ五
同	銀行秘密の維持と所得稅	三六ノ六
同	保護關稅の合理化	三六ノ一
同	不動産貸營業の地方間課稅	三六ノ二
同	所得稅の不公平	三六ノ三
同	地方人稅の課稅方法	三六ノ四
同	人稅物稅の分界並に特徵	三六ノ五
同	地方稅に於ける貧者過重負擔傾向	三六ノ六
同	新地租の不公平と其匡正	三六ノ一

同	神戶正雄	稅制整理の目標	三七ノ一	同	織物消費稅に就きて	三七ノ三
同		特別會計の整理	三七ノ二	同	營業收益稅改造の一案	三七ノ五
同		家屋稅の累進	三七ノ三	同	所得稅改造の一案	三七ノ六
同		恩給の改革	三七ノ三	同	地租改造の一案	三七ノ四
同		公私混合營業	三七ノ四	同	酒の專賣に就きて	三七ノ一
同		赤字財政と對策	三七ノ五	同	印紙稅に就きて	三七ノ二
同		家屋稅移管問題	三七ノ六	同	砂糖消費稅に就きて	三七ノ三
同		非募債主義の考察	三四ノ一	同	取引所取引稅に就きて	三八ノ四
同		政府の營繕購品制度	三四ノ二	同	相續稅と登録稅との交錯	三八ノ五
同		官吏の俸給	三四ノ三	同	不動産の登録稅に就きて	三八ノ六
同		動的資本と課稅	三四ノ四	同	狩獵免許稅に就きて	三八ノ一
同		相續稅重課の大勢と其方法	三四ノ五	同	骨牌稅に就きて	三八ノ二
同		租稅賦課機關の問題	三四ノ六	同	所得の綜合累進課稅に就きて	三九ノ三
同		租稅と公益	三五ノ一	同	鑛業稅に就きて	三九ノ四
同		滿洲國の財政及財政策	三五ノ二	同	資本利子稅に就きて	三九ノ五
同		滿洲國稅制及其批判	三五ノ三	同	地方稅としての酒稅	三九ノ六
同		賣上稅に依る奢侈課稅	三五ノ四	同	免稅點以下の小所得者への地方課稅	四〇ノ一
同		多收手段としての酒稅	三五ノ五	同	地方間課稅に於ける住所對財源	四〇ノ二
同		インフレーション財政策	三六ノ一	同	鑛產稅附加稅の課稅權者	四〇ノ三
同		農業者と商工業者との租稅負擔の均衡	三六ノ二	同	地方交付金配分標準としての人口	四〇ノ四
同		法人所得の累進課稅	三六ノ三	同	傭人稅に就きて	四〇ノ五
同		郵便料の引上	三六ノ四	同	藝術家と課稅	四〇ノ六
同		異常所得の課稅	三六ノ六	同	獨逸及佛蘭西の所得稅	三六ノ三
同		相續稅改造の一案	三七ノ二	同	公式に依る累進に就いて	三九ノ三
				同	柏井象雄	

柏井象雄	累進稅率決定に關する一方法について	四ノ四	鹽見眞澄	デーチエルの公債論	三十四ノ四
三谷道磨	國家の相續權	三七ノ二	汐見三郎	南滿洲に於ける我租稅制度	三十一ノ一
同	贈與の合算課稅	三七ノ三	同	新地租法案を論ず	三十一ノ二
同	相續稅の本質	三八ノ五	同	大都市の土地の價格	三十一ノ六
毛里英於菟	勤勞所得分配の實證的研究	三五ノ二	同	稅率論	三十一ノ一
中川與之助	獨逸舊稅制の崩壞と財政調整法	三十一ノ五	同	所得稅の稅率の改正	三十一ノ二
同	租稅滯納の統計的觀察	三十一ノ一	同	稅制整理を論ず	三十一ノ六
同	私經濟との比較による財政の本質	四ノ一	同	英米の所得稅	三十一ノ一
小川郷太郎	昭和八年度豫算より觀たる財政計畫	三六ノ五	同	金輸出再禁止後の財界と財政	三十一ノ二
大畑文七	租稅經濟の發展限度	三八ノ四	同	軍事費の支辨方法	三十一ノ三
大谷政敬	都市の經濟的概念と本質	三十一ノ一	同	國民所得の分配の型を論ず	三十一ノ六
同	ソウエート露西亞の都市財政	三十一ノ三	同	齋藤内閣の財政政策	三十一ノ三
同	都市公企業の財政的意味	三十一ノ六	同	所得に關する疑義	三十一ノ四
同	最近の獨逸財政	三十一ノ三	同	地方財政の改革	三十一ノ一
同	中世の都市財政	三十一ノ六	同	地方財政調整交付金を批判す	三十一ノ三
同	財政の社會學的根本類型	三十一ノ二	同	我國の國民所得	三十一ノ六
同	ズルタン氏の國家收入論	三十一ノ三	同	企業と租稅負擔	三十一ノ四
同	國家經費の轉嫁に就いて	三十一ノ三	同	企業と所得稅負擔	三十一ノ六
小山田小七	我が國の都市經費と都市人口	三十一ノ二	同	免稅點以下の小額所得者	三十一ノ一
同	我國の市町村義務費に就いて	三十一ノ二	同	昭和五年の我國の國富を論ず	三十一ノ三
佐伯玄洞	英米兩國所得稅の特徴	三十一ノ五	同	昭和五年の我が國民所得を論ず	三十一ノ一
同	所謂「賣上稅」に就いて	三十一ノ二	同	臨時利得稅を論ず	三十一ノ六
同	配賦稅制度に於ける配分標準に就て	三十一ノ五	同	酒稅の改正	三十一ノ一
同	公債制度の社會的條件に就て	四ノ二	同	地方財政調整指數	三十一ノ二
島 恭彦					

汐見三郎 地方財政の不均衡と其の對策  
 武田長太郎 大都市に於ける所得の集積と分散  
 安田元七 戸數割に於ける資産狀況に依る資力算定方法  
 同 段別割の存在理由

四ノ四  
 三三ノ六  
 三二ノ四  
 三二ノ二

## 統計・統計學

フリードリッヒ・ツァーン 國際勞賃統計(歐文)  
 コラド・デニ 統計學に於ける將來の領域(歐文)  
 小島昌太郎 保險と統計及統計學  
 益田熊雄 失業統計の方法について  
 同 生計費指數に就て  
 中谷 實 金融統計特に通貨統計に就いて  
 蟻川虎三 統計の解説、批判、解析  
 同 經濟學全集「統計學」を読む  
 同 大量に就いて  
 同 統計學の課題としての景氣變動の研究  
 同 率勢米價に就いて  
 同 舊派統計學の一著作  
 同 測るべき大量  
 同 統計系列の基礎概念  
 同 統計利用の意義と問題  
 同 指數吟咏の基準  
 同 大量觀察代用法に就いて

三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ四  
 三三ノ二  
 三三ノ二  
 三三ノ四  
 三三ノ六  
 三三ノ一  
 三三ノ二  
 三三ノ三  
 三三ノ四  
 三三ノ六  
 三三ノ二  
 三三ノ六  
 三三ノ二

同 統計系列論に於ける一課題  
 同 大量觀察に於ける理論と技術  
 同 集團に就いて  
 同 統計比率に就いて  
 同 統計解析に於ける基礎的問題  
 岡崎文規 國勢調査に於ける年齢の誤謬  
 同 國勢調査で用語  
 同 住居統計に就いて  
 同 世帯統計に就いて  
 同 國勢調査の性質に就いて  
 同 職業と營利  
 同 職業上の社會的地位  
 柴田 敬 經濟表について  
 同 擴張再生産表式について  
 同 所得分配統計の研究  
 同 日本都市年鑑を読む  
 同 統計圖表について  
 高岡周夫 J. B. Say の統計學觀  
 財部靜治 Westergaard の二著  
 同 比較研究法と統計の比較  
 同 政治算術附地方算法に就きて  
 同 ケトレー直後の英佛統計學

三三ノ三  
 三三ノ四  
 三三ノ六  
 三三ノ一  
 三三ノ三  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一  
 三三ノ一

## 人口・移植民



石川興二 滿洲問題と國民主義

三六ノア  
三三ノ五

金持一郎 植民地的活動に於ける政治的支配に就いて

三三ノ六

同 植民地に對する經濟活動の特質

三三ノ三

同 植民地鐵道政策の意義について

三四ノ三

同 印度鐵道の世界的地位に就て

三四ノ一

同 我國に於ける植民政策學の發達

三二ノ一

金谷重義 東京市中心地晝間人口調査に就いて

三四ノ六

三谷道麿 婚姻率の自律性に就いて

三五ノ六

同 人口動態並行法則を論ず

三五ノ五

岡崎文規 國勢調査に於ける人口の概念

三六ノ一

長田三郎 米國の對政馬投資とその影響

三三ノ四

作田莊一 滿蒙爭議の實相

三三ノ四

同 上海事變を通して見たる日支關係

三三ノ五

汐見三郎 人口密度と經濟生活

三二ノ一

末廣重雄 米國移民法の改正に就いて

三二ノ二

財部靜治 人口定數觀考

三七ノ三

同 赤子の天析統計觀

三六ノ五

同 人口粗密の原因觀

三三ノ一

高田保馬 階級による差別出生率

三三ノ一

同 人口に關する小論

三三ノ一

同 植民の世界史的意義

三三ノ一

谷口吉彦 恐慌と蓄積と植民

三三ノ一

若木禮 クレルウキアに就いて

三三ノ一

山本美越乃 ブラジルに於ける移民制限問題

三三ノ一

## 哲學・社會學

石川興二 ヘーゲル史觀の實踐的構造

三六ノ四、五

高田保馬 唯物史觀の第三史觀への接近

三六ノ六

同 社會的勢力の分析

三九ノ六

同 民族と社會の發達

四〇ノ六

竹中靖一 歴史哲學に就いて

三三ノ五

米田庄太郎 米國文化社會學

三二ノ三、四

同 精神科學の新分類論吟味

三四ノ一

同 人間學的社會哲學

三四ノ二

同 社會理念とイデオロギ、ウトビ！  
及びミートス

三四ノ四、五

同 マールクスの認識論原理

三六ノ一

同 第三史觀の概念

三三ノ三、四

同 第三史觀の可能性

三三ノ四、五

## 雜

本庄榮治郎 田島先生を憶ふ

三九ノ二

石川興二 田島先生を憶ふ

三九ノ二

神戸正雄 恩師シャイツ教授を悼む

三四ノ二

同 田島先生を追憶する酒の話三つ

三九ノ二

河田嗣郎 田島先生を憶ふ

三九ノ二

小島昌太郎 田島錦治先生を憶ふ

三九ノ二

黒正 巖 田島先生を追慕す

三九ノ二

織田 萬	赤城君を憶ふ	三九ノ二
大國壽吉	田島先生の思ひ出	三九ノ二
汐見三郎	ライン上りの想出	三九ノ二
田島 順	田島先生の憶ひ出	三九ノ二
高木真助	山本美越乃博士年譜	三九ノ一
同	山本美越乃博士著書論文目錄	三九ノ一
同	故田島博士年譜及著書論文目錄	三九ノ二
財部靜治	恩師追懷餘錄	三九ノ二
谷口吉彦	田島先生を憶ふ	三九ノ二

山本美越乃

田島先生追懷斷片錄	三九ノ二
第十九回國聯紀念講演會及統計圖書展覽會記事	三九ノ一
統計協會會議紀念統計圖書展覽會出品目錄	三九ノ一
第十九回國聯紀念統計圖書展覽會出品目錄	三九ノ一
經濟學部創立十五年紀念會記事	三九ノ一
經濟學部創立十五年紀念展覽會陳列圖書目錄	三九ノ一
法 令	三九ノ一、二、六
法 令	三九ノ五、六
新着外國經濟雜誌主要論題	三九ノ四 各號冊尾